

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772600039		
法人名	社会福祉法人 いなほ会		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	沖縄県中頭郡中城村字添石363番地		
自己評価作成日	平成29年 10月 27日(金)	評価結果市町村受理日	廃止

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=4772600039-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=4772600039-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年 11月 15日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームいなほは、社会福祉法人が運営する地域密着型のサービス事業所として、その特徴を生かし下記の項目に重点を置き役割の充実を目指している。</p> <p>① 中城村内の方が認知症になっても、尊厳を保ちながら住み慣れた地域で安心して暮らす事が出来る利用者支援並びに地域支援</p> <p>② 社会福祉法人として経済的に困窮している利用者の福祉ニーズへの対応</p> <p>③ 外部評価並びに自己評価、運営推進会議(年6回)を活用したより良いサービスの提供</p> <p>また、法人本体施設のバックアップもあり、行事や研修、緊急対応、防災訓練、その他の活動を定期的に実施し、日々サービスの向上を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は小高い丘の上であり、天気の良い日はリビングに差し込む明るい陽射しが覚醒に繋がり、中城湾が一望できる環境のもと、利用者がそれぞれの場所でリラックスした状態でくつろいでいる。法人が運営する事業所が敷地内にあり、災害対策に関しても、強化月間に消火訓練、避難訓練、招集訓練などを実施している。ホットラインの設備も完備しており、災害対策について取り組みがなされている。災害時や非常時、緊急時の避難の受け入れについても法人全体で取り組む体制が構築されている。職員の就業環境についてもライフワークバランスの実現に向け、職員の希望を聞き、法人内の人事異動を活用して配置し、離職の防止に繋げている。奨学金制度の創設など向上心を持って働けるよう支援している。そのことが職員の定着と資質向上及びサービスの質の向上にもつながっている。清掃などの業務を就労支援センターに委託し、地域との連携と職員の負担軽減にも繋がり、利用者にとってより良いサービスの提供が行われている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板や申し送り簿など見えやすい位置に理念を掲示しており、意識しやすいようにしている。理念にある、ケア・地域・職員に関することが実施できていると感じている。	管理者は、事業所独自の理念を職員と共に作成し、玄関先の掲示板へ掲示、面会時の家族や地域の方にも周知されている。又、ファイルや毎日確認する申し送り簿の最初のページに貼り、地域密着型サービスの意義を共有し、地域生活の継続支援と地域との関係性を重視した理念に基づく支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携を大事にしている。地域包括支援センター、社協、運営推進委員、赤十字奉仕団、中学校、保育園との交流があり、地域に支えて頂いている。	運営推進会議に地域代表の参加があり、地域の行事も把握、屋宜地区の方のカジマヤーのお祝いに法人を中心にパレードをしたり事業所の行事には、赤十字奉仕団や中学生がボランティアで参加する等、地域との交流を積極的に図っている。中城中学校の1年生を対象にした職業人講話には事業所から出向いたり、月1回の地域交流ホームパーティーを開催し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かけ交流することで、認知症になっても地域で安心して楽しく過ごせることを発信している。中城村の図書館訪問は村の歴史展示物もあり、ご利用者にも好評であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域からの情報があり、外出や活動時の参考にしている。また、積極的に参加していただき行事等を盛り上げて頂いており、一体となってサービスの向上に取り組んでくださっている。	運営推進会議は、年6回定期的に開催され、事業所の現状を報告、地域の行事予定や、委員からの質問や意見、要望を受け、前回の運営推進会議で取り上げられた事項についても経過を報告し合っている。運営状況に関する評価や助言なども受け運営に活かしているが家族の参加がない。議事録はあるが協議の内容の記録や事業所での公表がない。	運営推進会議への家族の参加がないことから、参加できるような工夫の取りくみと、協議の内容を記録に残し、委員や事業所内でも家族の方が閲覧できるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中城村とは身近な関係で常に連携しており、ホームの状況を理解している。また時おり緊急の受け入れなどの相談もあり、協力して地域のニーズに応えている。	行政は運営推進会議に毎回参加があり、事業所の現状を把握している。月に1回から2回窓口を訪問し、市町村担当者へ利用者の現状を具体的に伝え、連携を深めている。制度の改正に伴う研修案内などもFAXやメール、電話などで連絡がある。災害時の避難所としての受け入れも、法人として協力を申し出ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束しないケアを理解しており、積極的に学習できるよう学ぶ機会を作った。夜間以外の施錠はせずケアを実施している。	全体会議で高齢者の権利擁護や身体拘束に関する学習を行い、職員全体で共有意識を図っている。リスクについても家族と共有し、自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるように努めている。帰宅要求のある利用者が落ち着かない場合は、止めるのではなく寄り添い、外を一周する等、一人ひとりのその日の気分や状態にあった支援をしている	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者並びに介護支援専門員が中心となって、高齢者虐待防止関連法について、学習する機会を作り職員に伝達できるように努めている。	法人による全体会議で、「高齢者虐待防止法」に関する勉強会があり、理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。職員の言葉遣いに対してもストレスが要因になってないかなど、日頃から健康管理を把握する等、予防対策に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的に学べるように、学習の機会を作り学んだ。相談があれば支援出来る様にしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書を説明しており、同意したうえで捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご利用者の代表も参加されている。 ご家族は行事や活動にも積極的に参加していただいております。一体となって生活を支援していただいております。	ご家族には、日頃から意見や要望など、何でも話せるような雰囲気づくりに留意している。利用者は運営推進会議には毎回参加している。「外出の時、そばが食べたい」、「花見に行きたい」などの要望があり、八重瀬公園への花見が実現する等、利用者の意見が運営に反映されている。又意見箱に、外来者用の駐車場が少ないとの指摘があり、全体で検討し速やかに改善されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に定例会議を設けている。行事や活動は職員の意見を元にする事が多い。また、日々の申し送りがあり職員が共に相談し業務内容等を検討している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、毎朝の申し送りや、定例会議等で意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。業務の改善や行事及び活動は利用者の要望を聞き、定例会議で職員全体で検討し、出た意見が運営に反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者並びに職員の個々の努力や実績から昇格等を行う他、給与水準や労働時間、やりがい、奨学金制度の創設等、職員が向上心をもって取り組めるよう支援している。	法人内での人事異動があり、職員の希望を聞き、ライフワークバランスを考慮して実施することで、離職の防止に繋がっている。介護福祉士の資格取得後は資格手当と本人の意向を重視しながら正規職員への登用、人事考課による昇給、昇格と、職員が向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新任職員研修、現任職員研修を設定し法人内での研修を実施すると同時に法人外の研修にも積極的に職員を派遣し、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、中城村内の社会福祉法人によるネットワーク作りの場や地域交流会に積極的に参加するよう配慮し、風通しを良くしてサービスの向上が図れるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前の実態調査し、本人や事業所から状況や要望を確認している。後日判定会議を設け、職員間で入居前の準備を整えている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族と面談を行い要望を確認している。入居初期には密に連絡し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、お試しの期間を作り、在宅サービスを利用しながら、入居の支援を見極めた。支援が上手くいき、利用に繋がった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出かける場所などを一緒に決めながら、共に生活を過ごすようにしている。介護度が高くなるとともに、介護量が増えている方も多くなっている面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もとても協力的で、活動や行事に参加されている。 ご家族の面会も頻回にあり、ほぼ毎日のようにどなたかのご家族が来園される。また、行事では、日頃なかなか面会に来る事ができない、孫、ひ孫さんまで参加し、余興等を盛り上げ、ご利用者を支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	代表者は管理者並びに職員の個々の努力や実績から昇格等を行う他、給与水準や労働時間、やりがい、奨学金制度の創設等、職員が向上心をもって取り組めるよう支援している。	利用者の情報は、利用前に家族や前事業所、面会時の地域の知人や外出先での会話から情報を収集し、交流が継続できるよう支援している。又敷地内で併設している同法人の、デイサービスやデイケアを利用している地域の馴染みの方の面会に行ったり、事業所に訪問があったりと交流を継続している	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士はいつも、リビングで共にされている。地域も近く、ご家族同士も関わりがあり共に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も職員が入所先の施設へ顔を出す等の支援を行っている。 また、告別式欄にホームへのお礼を添えてくれたご家族もおられ、ケアに関わられたことを本当によかったと、職員間で共有できた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には、ご本人からの聞き取りやご家族、事業所からも聞き取りを行い、状況をより把握し、希望や意向を確認している。	日々の暮らしの中で、利用者に声をかけ、言葉や表情から思いや要望などを把握するよう努めている。入浴を拒否する利用者に対しては次回に実施する等、本人の意向を重視した支援を行っている。又意思疎通が困難な利用者に対しては、ご家族や関係者から情報を得、本人にとって最良の支援を家族を交えて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には生活歴・成育歴を確認し、利用までの経過や、昔の生活スタイルがホームでも生かせることできるように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の周辺症状や、身体機能を勘案し一日の過ごし方について検討している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議では、ケアについて検討しケアの向上に努めている。また、ご家族とは頻繁に近況を報告し、共にケアを検討している。	利用者の介護計画は半年に1回と、利用者の状況の変化に応じて作成している。又モニタリングも毎月実施しており、計画の変更や継続に繋がっている。介護計画の作成時は利用者、家族も参加し、関係関連のある職種と共にチームで話し合い、利用者の現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランに添った記録も実施し、気が付いたことは職員間で申し送り時にその都度、情報交換しケアの見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や相談に応じて、お試し利用を実施しニーズに合わせたサービスを実施して入居サービスに結び付いたケースがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。包括や社協とも密に連携し、法人も地域と過ごすことを掲げており豊かな生活を目指している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、通っていた病院に通院している方が多い。通い難かった病院に行けるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者、利用者・家族の希望で事業所から近い医療機関に変更した利用者がある。受診は家族が対応し、事業所からは書面で情報提供をしている。受診結果は返書や口頭、場合によっては医療機関との電話で報告を受けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の事業所には多くの看護職がおり、普段の状況を相談することができる。それによってご利用者への適切な病院受診の判断や支援ができるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院することがあり、入退院の際には地域連携室のSWと連携して対応している。相談や情報交換、退院支援等もスムーズに行えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご家族と相談し病院や老健、療養型病床と連携し取り組んでいる。	重度化や終末期については、利用者・家族に入居時に重要事項説明書を用いて事業所の方針を説明している。また、状態変化に応じて家族と話し合いをし、医療機関や他施設への入所等を連携して進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応について検討している。また、救急救命講習を受講し実践力を身に付けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、防災訓練を実施している。学習会、消火訓練、避難訓練、召集訓練等を実施。また定期的に勉強会も設け、設備についても把握するように努めている。	法人全体で実施する年2回の消防署の協力を得た防災訓練に利用者・職員ともに参加している。防災関連の取組は法人内で定期的に計画し、学習会や防火訓練、召集訓練も実施しており、防災設備やマニュアルも整備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、ご利用者の人となりを尊重している。職員はコミュニケーションを通して、仕事や子育ての話を聞きながら尊敬の念を伝えるようにしている。 また、職員研修会等でも、尊厳やプライバシーを守る講話がある。	利用開始時に「利用者の権利」を利用者・家族に配布しており、職員は法人内の研修にも参加し、利用者の誇りを損ねない言葉かけや対応に努めている。居室やトイレのドアは閉める等プライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の介護度が高くなるとともに、自己決定の表出が難しくなっている面もみられるが、自己決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせ、離床の時間などそのご利用者のペースに配慮しました。個人に合わせて検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から愛用されていた、衣服を持って来ていただき、変わらない生活を支援している。また、定期的に訪問美容室を利用しており、パーマやカラーを希望される方もおり、身だしなみを楽しんでいただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにキッチンがあり、共に食事を作る工程を楽しまれている。野菜の下ごしらえや、食器拭きを行われ手伝わられている。	今年10月迄は法人の栄養士が作った献立をもとに、事業所で3食調理していたが、11月からは職員の体制の関係もあり、白米は事業所で、副菜は法人で調理された物を盛り付けている。利用者が準備を手伝う事もある。外出時には利用者の希望でそばを食べたり、誕生日には好みのケーキを提供している。一緒に食事する事もケアの一環を考え、職員は利用者と共に食事をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立を頂き、食事を提供している。個人の状態に応じて食事を提供し、栄養バランスについて配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、毎食後の口腔ケアが行われている。義歯の消毒も徹底されている。また、状況に応じて歯科の先生に診てもらっている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用状況をご家族と確認しながら、排泄の状況をその都度説明している。また、介護度の高くなった利用者に対してもトイレ介助の機会を設け、起立運動の機会も兼ねている。	排泄チェック表で、利用者それぞれの排泄パターンを把握しトイレへ誘導している。夜間はオムツ利用が多いが、尿意の訴えがある時はトイレでの排泄をしている。入居時におむつ使用していた利用者も、トイレ誘導を継続することで自立に向けて改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便の状況を毎日把握している。便秘傾向がある方には、水分補給や運動・オリゴ糖など、本人に合わせた支援をしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は外出や病院の日にも合わせ、個々の希望に添った支援を行っている。	個浴で週3回程度の入浴を実施しており、利用者は個別に好みのシャンプーやボディーソープを準備して使用している。利用者は全員シャワー浴希望であるが、浴槽も設置されており、室温管理の冷暖房も備えられている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごしていただくことが多いが、個々の状況に応じて休息や午睡の時間を支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬を把握し、管理している。定期受診のたびに、処方内容をご家族と確認し、変更時は職員間で申し送りしている。	個別の薬箱に1週間～10日分の薬を担当者がセットし、鍵付きの事務所で保管している。与薬時は名前の確認を行ない誤薬等の事故防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度の高くなるなかで、本人の状態に合わせた活動をしている。(現在はもやしのひげとりや食器拭きなど)		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は実施できていない。定期的に外出の機会を設け、出かけている。また、周辺の散歩を行い気分転換している。	利用者は本人の希望により職員とともに事業所周辺の敷地内を散歩している。病院受診時に家族と外出する利用者もいる。季節ごとに利用者の行きたい所等希望も取り入れ、利用者全員でドライブに出かけたり外食を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行っており、外出時等にお金のやり取りを行っていただいている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より、ご利用者に連絡がある場合はその都度、電話まで案内し会話の時間を支援している。 また、年賀状を家族や関係者へ送る等の取り組みも行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		リビングの窓は大きく、海が見え景観が良い。太陽光が入りやすい為、陽が強い時はカーテンで調節している。入り口や廊下等の共用空間部分に観葉植物を置いて緑も取り入れている。利用者はリビングのソファや椅子でテレビ鑑賞をしたり、職員と談笑している。畳間もあり、利用者が洗濯物をたたむ事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場でも一人で過ごされる方がおられ、安心できるように環境を整えている。(キッチンで職員と過ごされます)		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族が心地よく過ごせる様に、使い慣れた家具など自由に持ち込みしていただいている。ご家族と一緒に過ごせる様に配慮している。 また、お部屋に泊まる事も可能である。	全室にベッド・タンス・洗面台・籐の机と椅子が備え付けられている。利用者によっては、入居前から使い慣れたタンスを持ち込んだり、壁に本人や家族の写真、格言のポスター等が飾られている。家具は一人ひとりの動線に合わせて配置されており、心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、表示を工夫している。 トイレや居室が分かりやすいように、掲示している。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容